

みんなもっと

バスに

乗ろうよ!



問 都市計画課 ☎49 3111(内線312)

秋北バス株式会社自動車課 ☎42 3536

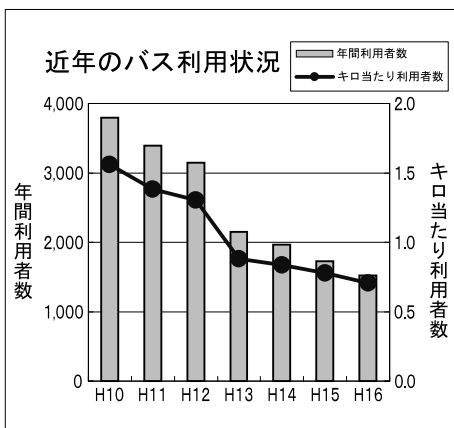
さわやかみなみ号で通学する南小学校児童

路線バスの利用状況

公共交通機関には、バス、タクシー、鉄道、飛行機、船舶などがあります。

左のグラフは、大館市を起終点に走る路線バスの年間利用者数とバスを1km運行した時の乗車人数の、平成10年から昨年までの推移を表しています。

自家用車の普及などに伴い、バスの乗車率は年々減少を続けています。昨年の年間平均で、バスを1km運行した時に0.7人しか乗っていない状況でした。



路線バスに補助金を交付

路線バスの収支は、採算ラインを割り込み毎年赤字が続いている状態です。この赤字額は年々増加し、特に5年程前から大幅に悪化

しています。バス事業者の秋北バス(株)では、経営努力による厳しい経費削減を図っているものの、それ以上に利用者の減少による減収が激しく、赤字額は大きくなっています。

現在、バスを1km運行する経費は256円であるのに対して、収入は146円しかなく、バスを1km運行すると110円の赤字が生じています。

路線バスは、公共性が高いため、国、県、市町村が補助金を交付し、赤字路線を維持しています。昨年の赤字総額は約2億3,700万円、そのうち、補助金総額は約2億1,600万円、大館市は約7,400万円負担しています。

今後も利用者減少が進み、補助金が増加していくことになれば、路線バスを維持することが困難になっていきます。

利用者増加への切り札 コミュニティバス

緑の車体に黄色の屋根根でおなじみの、さわやかみなみ号。昨年4月から二井田真中地区を、コミュニティバスさわやかみなみ号が走っています。

コミュニティバスは、通常の路線バスが運行していない地域を運

行するバスで、多くは行政の支援を受け、高齢者などが利用しやすい工夫がなされています。

さわやかみなみ号は、二井田真中地区の路線バスと南小学校スクールバスを統合してコスト削減を図り、以前よりも料金を低く設定、便数を増やし、さらに東大館駅や市立総合病院を経由することで利便性を向上させました。

また、導入に際しては、愛称を公募するなどの広報活動のほか、同地区に利用促進協議会を発足させ地域への定着を促してきました。その結果、バスの利用者数は大幅に伸び、前年の同地区のバス路線と比較して、約30%もの増加となっています。地域の皆さんと、事業者、行政が一体となって実施したこのコミュニティバスは、順調な滑り出しとなりました。

